

## (2) 石山地区の取り組み

石山は、明治7年(1874年)に札幌軟石の採掘が開始され、運搬のための馬車鉄道が敷かれたことなどから軟石の産出も本格化しました。大正7年(1918年)に定山溪鉄道が開通し、街並みも石切山駅を中心に発展しました。

しかし、戦後、建築工法の変化とともに軟石の発掘は減少し、その後、定山溪鉄道も廃止となります。

平成8年(1996年)に、採掘場を史跡として保存するために、石切り場の特性を活かした彫刻家の参加による公園づくりが行われ、その「石山緑地」の整備をきっかけとして、地域住民主催の芸術祭が開催されました。

また、地元のまちづくり組織による札幌軟石の保存活動により、石山の名所をめぐる地図や会報の作成、札幌軟石を建物や塀の一部に使用してもらう呼びかけも行われてきました。

3

地域でまちづくりに活かそう



石山緑地



芸術祭も行われました



ほすとかん



旧石切山駅



景観  
まちづくりの  
POINT

### 皆さんの地域でも

札幌軟石は、わかりやすい地域の景観資源ですが、石山地区には他にも、地形や緑、自然発生的にできた街路など、他と異なる地域性があります。

地域にある景観資源を見つけ出してみましょ。それを地域全体で共有化することで、地域への連帯感や愛着が生まれ、そこからまちづくりへの一歩がはじまります。



様々な場所で  
軟石が発見  
できます

